

仙台空港脱炭素化推進計画の進捗状況について(2023年度)

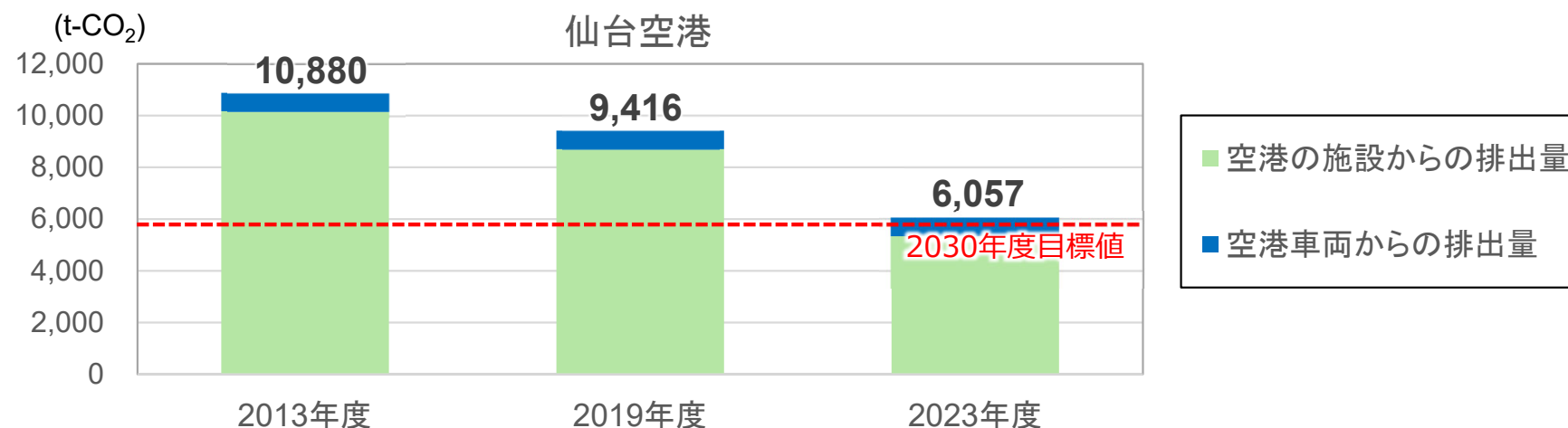
■目標:2013年度比 温室効果ガスの削減量

2030年度目標	2013年度比 46%削減
2050年度目標	カーボンニュートラル

■取組み状況

- **空港の施設**：航空灯火のLED化により、2023年度のCO₂排出量は推定17t-CO₂/年削減。(2013年度比0.16%相当)
仙台国際空港株式会社において太陽光発電の導入により、2023年度のCO₂排出量は推定747t-CO₂/年削減。
(2013年度比6.9%相当)
- **空港車両**：空港車両のEV化により、2023年度のCO₂排出量は推定5t-CO₂/年削減。(2013年度比0.046%相当)

区分	実績 (CO ₂ 排出量) [t-CO ₂ /年]		
	2013年度	2019年度	2023年度 (現状)
空港の施設からの排出量	10,166	8,696	5,335
空港車両からの排出量	713	720	722
計	10,880	9,416	6,057



■CO₂排出量の増減理由

※2024年7月時点での協議会構成員からの報告をもとに作成

- 2023年度における空港の施設からのCO₂排出量は2019年度に比べて減少した。太陽光発電の導入及び再エネ由来電力の購入等がCO₂排出量の削減に影響したと考えられる。
- 2023年度における空港車両からのCO₂排出量は2019年度と比べて大きな変化はなかった。車両のEV化による削減効果はある程度あったが、旅客需要の回復によりGSE車両等の走行量が増加したため変化がなかったと考えられる。